

(報告)

# 特定行為研修を組み込んでいる 認定看護師教育課程に対する A 県内の看護師のニーズ

前澤美代子<sup>1)</sup> 遠藤みどり<sup>1)</sup> 名取初美<sup>1)</sup> 佐藤悦子<sup>2)</sup>  
橋本晶子<sup>1)</sup> 横森愛子<sup>1)</sup> 中込洋美<sup>1)</sup> 狩野英美<sup>3)</sup>

## 要旨

本研究の目的は、特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育課程（以下、B 課程と略す）に対する A 県内の看護師のニーズを明らかにすることである。方法は、A 県内の医療機関および訪問看護ステーションに勤務し、臨床経験 5 年以上の看護師 667 名に対し質問紙調査を実施した（回収率 73.9%）。結果、有効回答数は 445 名（90.2%）であり、B 課程に興味がある看護師は 166 名（37.3%）であった。B 課程受講に関する看護師の認識は【チャンスと看護力向上への動機づけによる受講】【県内受講による学習時間と環境の保持】【職場の理解不足による受講のためらい】【修了認定後の不安】【リモート受講や聴講システムの要望】【認定看護師を目指す若い看護師を応援】であった。B 課程受講にあたり障壁となる要因の対応として、県内での受講、助成金などの経済的支援、リモートなどを取り入れた学習方法の検討、職場や上司の認定看護師への理解、現任の認定看護師の活動成果の可視化や研究支援の重要性が示唆された。

キーワード：特定行為 認定看護師 教育課程 看護師 ニーズ

## I. 序論

認定看護師制度は、我が国の人口の少子高齢が進み、医療の高度化に対応できる熟達した実践力のある看護師の育成が急務となり 1995 年に発足された<sup>1)</sup>。認定看護師の役割は、特定の分野における知識と卓越した技術を用いて実践、相談、指導を行うことである。さらに地域包括システムが進む中、認定看護師の活動は、急性期医療から在宅医療にわたり患者の療養生活を支え、地域・施設間の連携に参画するなどあらゆる場に拡大されている<sup>2)</sup>。現行の認定看護師教育課程教育機関の認定審査は 2019 年に終了し、2020 年から「新たな認定看護師制度」として、特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育機関（B 課程認定看護師教育機関）の教育が開始された。現在（2021 年度末）、特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育機関は、全国で 26 機関、41 課程、定員数 824 となっており、19 分野のうち最も多いのは、感染管理の 10 機関であり、次いで認知症看護、緩和ケアとなっている<sup>3)</sup>。

A 県内の看護実践開発研究センターは 2011 年から緩和ケア認定看護師教育課程、2014 年から認知

症看護認定看護師教育課程を開講している。これらは、特定行為を組み込んでいない教育課程であるため 2026 年度で終了することになる。

そこで、今回、A 県内の看護師が、特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育課程に対してどのようなニーズがあるのかを明らかにし、特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育課程の設立にむけた具体的な検討の示唆を得たいと考えた。

## II. 目的

特定行為研修を組み込んでいる認定看護師教育課程（以下、B 課程と略す）に対する A 県内の看護師のニーズを明らかにする。

## III. 研究方法

### 1. 対象者

A 県内の医療機関および訪問看護ステーションに勤務し、臨床経験 5 年以上の看護師とする。

医療機関 60 施設から各 10 名、訪問看護ステーション 53 施設から各 2 名、合計 700 名程度とした。看護管理者および認定看護師、専門看護師は除外した。

受付日：2022 年 6 月 11 日 受理日：2022 年 8 月 10 日

1) 山梨県立大学看護学部 2) 山梨県看護協会 3) 山梨県立大学看護実践開発研究センター

## 2. データ収集方法

2020年10月～11月に質問紙調査を実施した。調査項目は対象者の概要、B課程への興味、興味のあるB課程の分野、A県内でのB課程開講時の受講の際に支障となる要因とした。

質問紙調査は、該当する施設の看護管理者に意向調査を行い、指定された研究協力担当者に必要部数の質問紙と返信用封筒、依頼文を郵送し、研究対象候補者に配布してもらった。個別封筒に封入後に返送してもらった調査用紙の回答結果をデータとした。

## 3. 分析方法

量的データはSPSSver.28を用いて基本統計の算出を行い、自由記述の質的データは内容を集約しカテゴリー化する質的帰納的分析を行った。分析の信頼性妥当性を確保するために、メンバー間で検討を繰り返し洗練させていった。

## IV. 研究における倫理的配慮

調査は無記名で行い、個人情報保護に努めた。また、本研究への参加は自由意思であり、質問紙への回答および返信をもって同意を得たものとした。研究協力の中止・撤回は、無記名での調査のため調査票の投函までに限り可能なことを依頼文書に明記した。なお、本研究は、山梨県立大学看護学部及び看護学研究科研究倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：2020-11）。

## V. 結果

看護管理者の意向調査の結果、協力が得られた施設に対し、667部の質問紙を配付した。研究協力が得られた看護師からの回答数は493部（回収率73.9%）、有効回答数は445部（有効回答率90.2%）であった。

### 1. 対象者の属性

対象者445名の平均年齢は40.9 ± 9.3歳で、看護経験年数の平均は17.1 ± 8.9年であった。所属施設は、病院施設が407名（91.5%）、訪問看護ステーションが38名（8.5%）であった（表1）。

### 2. B課程への興味と興味のある認定分野

B課程に興味があると回答したのは、病院看護師は147名（36.1%）、訪問看護師は19名（50%）の合計166名（37.3%）であった（表2）。

表1 対象者の背景 n=445

	人(%)	年齢平均値 (標準偏差)	経験年数平均値 (標準偏差)
病院	407(91.5)	40.27(±9.2)	16.6(±8.8)
訪問	38(8.5)	47.21(±7.4)	22.0(±7.9)
合計	445(100)	40.9(±9.3)	17.1(±8.9)

表2 B課程への興味 n=445

	有 人(%)	無 人(%)	
病院看護師	147(36.1)	260(63.9)	407
訪問看護師	19(50.0)	19(50.0)	38
合計	166(37.3)	279(62.7)	445

表3 病床数毎の緩和ケアおよび認知症看護の希望

	緩和ケア	認知症看護	その他	合計
100床未満	0	2	1	3
100~200床未満	4	10	20	34
200~300床未満	7	10	17	34
300床以上	22	14	40	76
合計	33	36	78	147

興味のある認定分野は、複数回答において、認知症看護61名、緩和ケア58名、在宅ケア51名、皮膚・排泄ケア49名、感染管理32名の順であった（図1）。病院看護師の所属施設の病床数別では、100床未満、100床から200床未満および200床から300床未満の病院看護師は認知症看護分野を希望しており、その他の回答では、感染管理や摂食嚥下などの分野が多かった。300床以上の病院看護師は、緩和ケア、認知症看護、皮膚・排泄ケアや感染管理などの幅広い分野に興味を示していた（表3）。

### 3. B課程受講にあたり支障となる要因（図2）

B課程に興味があると回答した166名のうち、受講にあたり支障があると回答したのは病院看護師128名で、支障がないと回答したのは19名であった。訪問看護師は受講に興味のある19名全員が、支障があると回答した。

支障となる要因は、複数回答で、仕事との両立が148名、子育てが主な理由の家庭生活が97名、経済的理由が91名、体力や年齢による記憶力などの不安が77名、修了後の仕事の内容がイメージできない不安が20名、自分の興味ある分野は勤務先では求めているが22名、興味があるが学びたいことが18名であった。

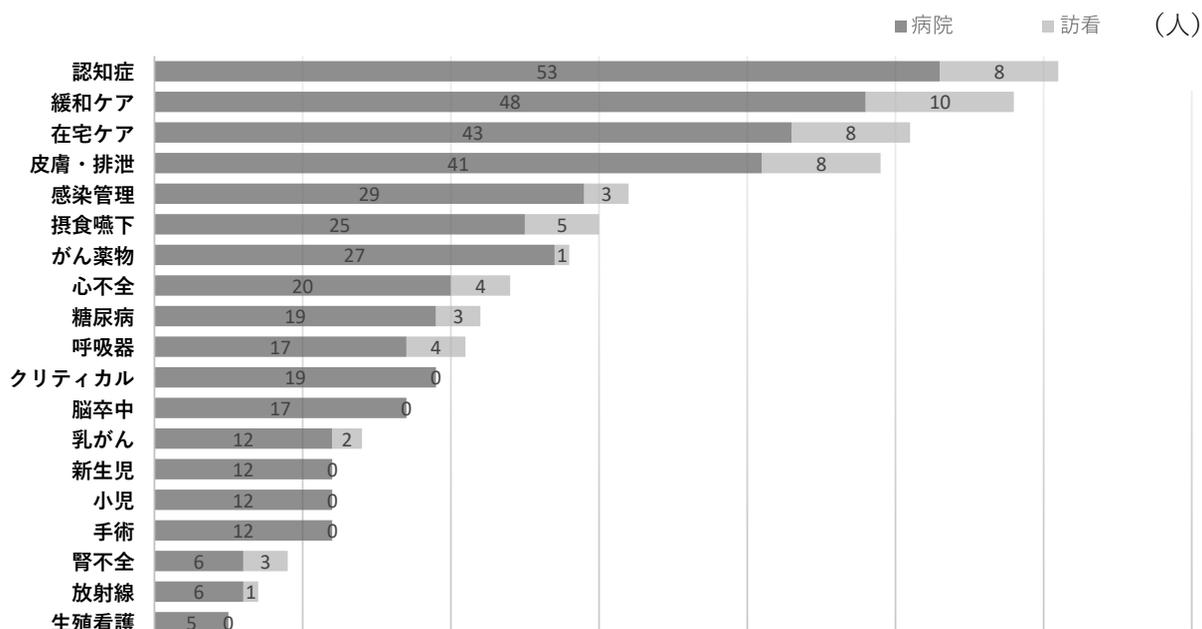


図1 興味のある分野 (複数回答有, 回答者 166人)

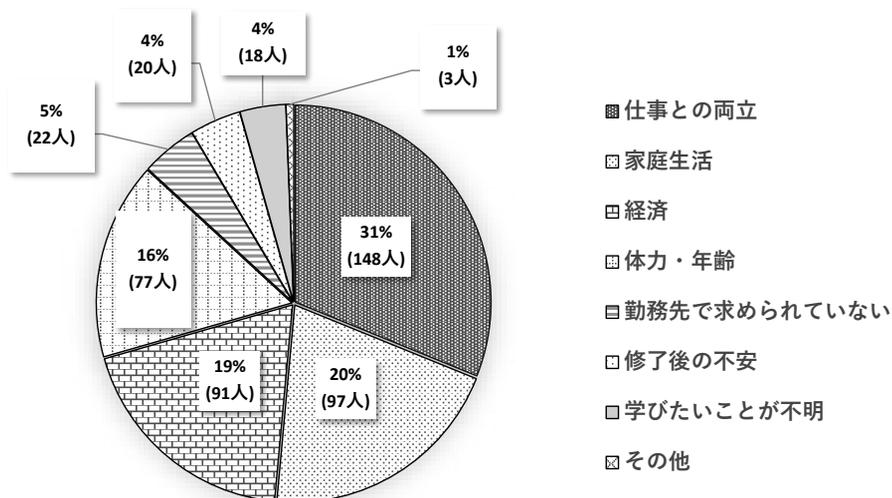


図2 受講にあたり支障の理由

複数回答あり, 回答者206人

4. B 課程受講に関する看護師の認識 (表4)

自由記載のデータから得られた40コードから、13サブカテゴリ、6カテゴリが導かれた。以下、コードを「」、サブカテゴリを〔 〕、カテゴリを【 】で示す。

【チャンスと看護力の向上への動機づけによる受講】では、対象者は「特定行為研修や認定看護師の育成は大切だと思うし自分もチャンスがあれば目指したい」や「チャンスがあれば受験したいと思う」と

「チャンスがあれば受講」したいと考えていた。また、「認定看護師として、人としてコミュニケーションや社会人基礎力の向上も図れて看護力が上がると思うので挑戦したい」等、「自己の看護力の向上への動機づけによる受講」を期待していた。

【県内受講による学習時間と環境の保持】では、対象者は「県外に出なくても特定行為研修が受講できることはとても魅力的である」などから「県内受講による学習時間の確保」や「県内で受講できるのは

環境が変わらないので頑張れる」こと、「県内での受講は仕事や環境が継続できるのでストレスが軽減される」ため「環境保持がもたらすストレス軽減」になると捉えていた。

【職場の理解不足による受講のためらい】では、対象者は「仕事と学業が両立できるような職場の理解が必要」や「学業を大事に思うような職場の理解が不足しているので、ためらう」などの「職場の理解が得られるかの不安のためらい」を感じており、「実践センターでも職場の上司に認定看護師や特定行為研修の重要性について発信して上司の理解を進めてほしい」などの「B課程に対する上司の認知の低さ」や「病院内の優先順位があり研修に行きたくても行けないので気持ちが減入る」などの思いから「組織と看護師との期待のズレ」があると感じていた。

【修了認定後の不安】では、対象者は「認定看護師についての役割や内容など、県内外の色々な情報を提供して欲しい」という思いから「認定看護師についての社会の理解不足」があると考えており、「臨床で認定看護師への負担がかかりすぎている状況を目の当たりにしているので、資格を取ったとしてもその後の負担を考えると取ろうと思わない」など「修了認定後の負担への不安」があることを問題視していた。

【リモート受講や聴講システムの要望】では、対象者は「リモートの研修会があるとスマホで見られるので、家で学習ができて良いと思う」など「リモートやオンデマンド学習の要望」があり、また「B課程の研修を認定取得以外の看護職にも研修（講義）の参加などの機会があるとよいと思う」など「B課程の聴講システムの要望」をもっていた。

【認定看護師を目指す若い看護師を応援】では、対象者は「年齢的に認定看護師教育課程の受講は考えられないが、新しい知識・技術を学びたい」など「認定看護師を目指すには年齢的限界」を感じており、「年齢的に今からは限界があるが、若い看護師を応援したい」など「若い看護師を応援したい」と思っていた。

## V. 考察

### 1. 対象者の背景から捉えたB課程受講へのニーズ

本研究の対象者は、平均年齢が40歳で、看護師経験も平均17年という中堅からベテランの看護師であり、ライフサイクルでは子育て世代から親の介護まで家庭においても重要な役割を担っている世代であった。キャリアステージ<sup>4) 5)</sup>において、40歳前後は職務分野の確立時期の「確立期」で、自分の仕事

アイデンティティとして続けられる職業分野を目指す時期であるとされている。Super<sup>6)</sup>は、中年期は成長・維持・衰退の分水嶺（分かれ道）があると述べている。この時期に、専門分野の知識と技術を身につけようとするあり方は、キャリアステージの点で仕事アイデンティティを確立するための生産的な活動として重要である。

また、B課程の受験対象者は5年目以上の臨床経験が条件であり、仕事と家庭の両立に加え、学業に専念できるための調整力が必要になる。看護師のキャリアパスに必要なスキルとコア能力として、専門看護師や認定看護師などの専門性を目指す人は、Technical Skill（看護という職務の遂行およびその成果を得るための家庭で要求される専門的知識や技術）とConceptual Skill（物事を認識し、その本質を洞察するために要求される技）の2つが重要<sup>7)</sup>といわれている。具体的には、情報集力や分析力と企画力、評価力があげられている。さらに、看護職におけるキャリアは、家庭生活と職業生活を通しての成熟とされているため、専門性の高いB課程の受講においては、仕事や生活、学修時間を調整できる能力が備わっていることが前提として重要であると考えられる。

### 2. 看護師の認識から捉えたB課程受講へのニーズ

B課程に興味があると回答した病院看護師は147名および訪問看護師は19名の合計166名であった。興味のある認定分野は、認知症看護、緩和ケア、在宅ケア、皮膚・排泄ケア、感染管理の順であった。このことは、保健・看護師のキャリア発達に関する研究動向から、キャリア発達の方向性として、「終末期看護分野」が最も多くみられたという報告<sup>8)</sup>もあり、本研究においても、認知症看護や緩和ケアおよび在宅ケアの多くは終末期看護分野であり、看護師は、自らのキャリア発達として方向性を定めていたのではないかと考える。また、病院組織や上司のビジョンと看護師のキャリア発達の方向が一致しているとスムーズなB課程受講行動につながるが、「職場の理解が得られるか不安」[B課程に対する上司の認知の低さ][組織と看護師の期待のズレ]から【職場の理解不足による受講のためらい】があり、看護師はチャレンジしたいことを上司に相談するまでに至っていないことも示唆された。したがって、中堅看護師のチャレンジ精神をキャッチするための組織の仕組みとともに、看護師のキャリア発達のためのコア能力<sup>9)</sup>としての調整交渉力を育成していくことも今後の課

題である。一方、B 課程受講への興味がない看護師が多く、病院看護師は62.7%、訪問看護師が50%であった。病院看護師の勤務している主な診療科による違い、訪問患者の状況などの違いについての調査はしておらず、B 課程そのものに興味がないのか、おかれている職場の診療科や訪問患者の状況で対象となる教育課程がないのかという分析には至っていない。

また、病院看護師の所属施設の病床数別では、100床未満の病院看護師は認知症看護分野を希望しており、100床から300床未満では認知症看護の他、感染管理や摂食嚥下などの分野が多く、300床以上では緩和ケア、認知症看護、その他の幅広い分野に興味を示していた。このことは、関わっている患者の疾患や状態が動機となって興味のある分野を選択していると思われる。したがって、設置するB 課程分野の選択は、地域における患者の疾病構造や治療の特殊性などの地域課題を視野に入れて判断することが必要である。300床未満の中小規模の病院からB 課程を受講する期間における人材の不足を考慮すると、看護師の認識にある【リモート受講や聴講システムの要望】への対応も検討していく必要性が示唆された。さらに、今回は病床数の要因のみの分析であったが、病院別の特色や専門性による違いからの分析も必要であると考えられる。

### 3. B 課程受講の支障となる要因から捉えた看護師のニーズ

B 課程受講の支障となる要因は、仕事との両立、子育てが主な理由の家庭、経済的理由、体力や年齢による記憶力などの不安、修了後の仕事の内容がイメージできない不安、の順であった。仕事との両立と家庭については、自由記載からは【県内受講による学習時間と環境の保持】として、県内で受講できることが、障害を解決または軽減できると考えていることが伺えた。経済的理由の障壁に関しては「助成金の整備があれば受験したい」という思いがあり、活用できる助成金の紹介を積極的に行う必要性が示唆された。修了後の仕事の内容がイメージできない不安は、[認定看護師について社会の理解不足]や[修了認定後の負担への不安]など【修了認定後の不安】であった。このことは、認定看護師の専門的知識に自信のある認定看護師が53.4%であったことから、これらは6ヶ月600時間をかけて学習を行ったにもかかわらず、自己の能力に自信が持てていないことを示していた。この要因として、認定看護師

は日頃の看護実践に研究成果を活用していないことが示されている。B 課程修了後の認定看護師の役割が不明確であるが故の不安が、B 課程を受講するという一歩進むことへの戸惑いを生み、障壁となっていることが示唆された。本調査における対象者のモデル的役割を担う認定看護師が活動成果を可視化し、実践での貢献している姿を見せていくことで、次世代の認定看護師への動機づけになるため、現任の認定看護師への活動成果や研究への支援も必要であることが明らかになった。

体力や年齢による記憶力などの不安に関しては、[認定看護師を目指すには年齢的に限界]がある一方で[若い看護師を応援したい]というキャリアの開放期のステージにある看護師の意見が伺えた。

## VI. 結論と今後の課題

1. B 課程受講を希望している看護師は、40歳前後の中堅看護師が多く、受講するにあたり仕事と家庭との両立に加え学業に専念できる時間と環境の調整を必要としていた。

2. B 課程受講にあたり障壁となる因子への対応として、県内での受講、助成金などの経済的支援、リモートなどを取り入れた学習方法の検討を求めている。

3. 職場や上司の認定看護師への理解とともに、キャリア形成として方向づけている看護師の声を聴く組織体制も必要であることが示唆された。

4. 認定看護師教育機関は、現任の認定看護師の活動成果の可視化や研究支援が必要であることが示された。

今後は、B 課程への興味の有無について、看護師の診療科や訪問患者の状況、さらに病院別の特色や専門性による違いからの分析ができるような調査をしていくことが課題である。また、本調査は、A 県内の看護師を対象としたニーズ調査であったため、一般化するには限界がある。したがって今後は、近隣の都府県に対象者を拡大して、看護師ニーズを抽出し、より良い認定看護師教育課程の整備に寄与していくことが課題である。

### 利益相反

本研究における利益相反 (COI) は、存在しない。

### 付記

本研究は、令和2年度山梨県立大学看護実践開発

研究センタープロジェクト研究費助成を受け実施し、一部を第52回日本看護学会学術集会において発表した。

#### 【文献】

- 1) 日本看護協会認定部: <https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn> (accessed 2022.6.6)
- 2) 日本看護協会認定部: [https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/aratana\\_cn\\_ikou](https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/aratana_cn_ikou) (accessed 2022.6.6)
- 3) 日本看護協会認定部: 分野別都道府県別登録者数・教育機関数:  
<https://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/cn> (accessed 2022.6.6)
- 4) 山本寛: 自分のキャリアを磨く方法－あなたの評価が低い理由－、10-12、創成社、2008. 東京
- 5) 三浦美和子: 看護師のキャリア意識とキャリア・プラトーの関連性、日本大学大学院総合情報研究科紀要 N0.9、257-268、2018.
- 6) Super, D.E. & Bohn, J.Jr: Occupational Psychology. Belmont, Wadsworth Publishing Co., 藤本喜八、大沢武志訳: 職務の心理、30-36、ダイヤモンド社、1970. 東京
- 7) 小澤幸夫、村田厚生: 看護師のキャリアパス別に必要なスキルとコア能力に関する調査研究、人間工学、Vol.50, No.6 359-367, 2014.
- 8) 兼宗美幸、長谷川真美、横山恵子、坂本めぐみ: 看護師のキャリア発達の意識と継続教育の情報に関する一考察、第35回日本看護学会論文集、看護教育、226-228、2004.
- 9) 前掲書7)

表4 B課程受講に関する看護師の認識

カテゴリー(6)	サブカテゴリー(13)	コード (40)
チャンスと看護力向上への動機づけによる受講	チャンスがあれば受講	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為研修や認定看護師の育成は大切だと思うし自分もチャンスがあれば目指したい</li> <li>・チャンスがあれば受験したいと思う</li> <li>・助成金の整備があれば受験したい</li> <li>・研修センターの存在も知らなかったが、研修をきっかけに知ることができ、いろいろ学びたい気持ちはある。</li> </ul>
	自己の看護力の向上への動機づけによる受講	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師として、人としてコミュニケーションや社会人基礎力の向上も図れて看護力が上がると思うので挑戦したい</li> <li>・看護実践と現在求められる看護力との相違を感じるため、認定看護師になって看護力を高めたい</li> <li>・緩和ケア分野を学びたいので再開してほしい</li> <li>・小児科系の資格が取得できればうれしい</li> <li>・精神科分野の看護を学びたい</li> </ul>
県内受講による学習時間と環境の保持	県内受講による学習時間の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県外に出なくても特定行為研修が受講できることはとても魅力的である</li> <li>・県内に教育課程があることで時間が勉強に充てられる</li> <li>・県内で学ぶことは移動時間が少なく学習時間を多く持てる</li> <li>・県外では移動時間など学習時間が減ってしまうので、認知症看護や緩和ケア分野以外の分野を県内で学びたい</li> </ul>
	環境保持がもたらすストレス軽減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内で受講できるのは環境が変わらないので頑張れる</li> <li>・県内での受講は仕事や環境が継続できるのでストレスの軽減される</li> <li>・県内では子育てしながらでも受講しやすいので挑戦したい</li> </ul>
職場の理解不足による受講のためらい	職場の理解が得られるかの不安とためらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事と学業が両立できるような職場の理解が必要</li> <li>・看護師不足な職場の理解が得られるか不安</li> <li>・学業を大事に思うような職場の理解が不足しているので、ためらう</li> </ul>
	B課程に対する上司の認知の低さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践センターでも職場の上司に認定看護師や特定行為研修の重要性について発信して上司の理解を進めてほしい</li> <li>・病院に認定看護師の必要性について発信してほしい</li> <li>・施設内でも特定行為に関しては認知度が低く、病院全体の病院長や看護部長によっても捉え方が全く違うので、希望を聞いてもらえない</li> <li>・個人が必要と感じても、組織、病院全体で必要と感じないので挑戦のためらう</li> </ul>
	組織と看護師との期待のズレ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院内の優先順位があり研修に行きたくても行けないので気持ちが減る</li> <li>・組織が声をかける人材の判断理由が不明で、組織が自分の興味のある分野に期待していないので悩む</li> </ul>
修了認定後の不安	認定看護師について社会の理解不足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師についての役割や内容など、県内外の色々な情報を提供して欲しい</li> <li>・認定看護師が病院に貢献できることを病院が理解できるように発信してほしい</li> </ul>
	修了認定後の負担への不安	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床で認定看護師への負担がかかりすぎている状況を目の当たりにしているので、資格を取ったとしてもその後の負担を考えると取ろうと思わない</li> <li>・現場で認定看護師が役割を果たしている実感が少ない</li> </ul>
リモート受講や聴講システムの要望	リモートやオンデマンド学習の要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモートの研修会があるとスマホで見られるので、家での学習ができて良いと思う</li> <li>・オンデマンド繰り返し学習できるシステムがあるとよい</li> <li>・Zoomなどを活用した学習方法があると子供行事も優先できる</li> </ul>
	B課程の聴講システムの要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・B課程の研修を認定取得以外の看護職にも研修（講義）の参加などの機会が欲しい</li> <li>・機会があれば、認定看護師の教育を見学したい</li> <li>・資格取得でなくてもB課程の勉強ができる機会を作ってほしい</li> <li>・B課程の学修を見学できるとイメージができるので聴講システムなどを作ってほしい</li> </ul>
認定看護師を目指す若い看護師を応援	認定看護師を目指すには年齢的限界	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢的に認定看護師教育課程の受講は考えられないが、新しい知識技術を学びたい</li> <li>・自分の年齢では限界かもしれない</li> </ul>
	若い看護師を応援したい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢的に今からは限界があるが、若い看護師を応援したい</li> <li>・看護教育レベルが高くなることで、病院看護師やその他の所属施設で働く人々のレベルも上がっていく事に繋がるので、今後も教育レベルの底上げに期待したい</li> </ul>

# The nurses' needs of certified nurse curriculum in A prefecture

MAEZAWA Miyoko, ENDO Midori, NATORI Hatsumi, SATO Etsuko,  
HASHIMOTO Akiko, YOKOMORI Aiko, NAKAGOMI Hiromi,  
KARINO Hidemi

key words : certified nurse, curriculum, nurse, needs